

# Mランドニュース Vol. 105

## 丹波ささ山校 平成27年12月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569  
TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 井本 徹  
<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 《今月のことば》

今が一番若いのです。今やらなくてどうする…。二度とない人生を、人間として生まれた幸せに感謝しながら、ご先祖様からいただいた大切な命を輝かせましょう。

(株)タニサケ会長 松岡 浩著  
「乾いた雑巾を絞る」文中より

### 感謝

十一月八日(日)、関西を

はじめ、茨城、千葉、東京、岡山からの卒業生と、多くの地元の方々にお越しいただき、第十回 Mランドフェスタ二〇一五テーマ「ささ山を感じ、ささ山で歓動しよう！」を開催させていただきました。

早朝、続々と参加者が来所されるロビーには、大型テレビモニターを通して、篠山のホッケークラブや、篠山サッカー協会の皆さまのそうじをされているようすや、メッセージが映像となって、ここになくても「つながる」歓びを感じました。

篠山の街が美しくなる喜び、人の役に立つ、まさに「よくしていいこう」という空気が会場にあふれ、雨の中でも笑顔で活動をしてくださいました皆さまには、心から「感謝」という言葉しかありません。

イベントでは、「メイドインささ山」をテーマに篠山の皆さまが篠山の「特色」を使い、食べ物やステージイベントを通して、篠山の魅力を感じていただきました。

参加された方々、ご支援くださった方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

フェスタ事務局長 南勝 宏幸

### 一〇〇〇〇人で大そうじ

今年の掃除のテーマは「やさしいささ山を創ろう！」と企画しました。「やさしい」と言えば、誰もが知っている「アンパンマン」を目指し、篠山の皆さんに呼びかけてまいりました。おかげさまで小・中学校やスポーツクラブ、企業や自治体の方々の中に「いいことですねえ！私たちがやりましょう！」と喜んでくださり、私たちの「元氣と勇氣」をいただきました。



集中！集中！

また、今年には地域の若者六人でボランティア活動をされている『よつば』の皆さんも、スタッフとして参加していた

だき、Mランドと篠山の「一体感」を感じました。もちろん会場だけでなく、市内各地でも活動くださったことも忘れてはなりません。



「落ちないでねー！」

延べ九六二名の方々にご参加くださり、良い縁は次々とよい縁を生み、いい人に交わっていると良い結果に恵まれる、「縁尋機妙、多逢勝因」ということばを思い出しました。



そうじが終わって笑顔満開！

この日は時折、雨が降る

天候でしたが、皆さんが一所懸命に掃除をしている間は雨も一休み。よいことを行うという事は「人」だけでなく、「自然」までも味方をしてくれました。ありがとうございました。

フェスタ事務局  
そうじ担当 中野 聡

### メイドイン「ささ山」

今年のイベントは、地元の団体と特産で構成した、「メイドイン篠山」で行いました。



周りにいい匂いが漂っています

篠山のヒーローといえば「サグロー」、今年も面白トクで会場をわかせていただきました。また、全国で活躍されているよさこいチーム「丹波篠山楽空間」は、華やかさと氣魄のこもった踊りで、

イベントに彩りをあたえてくださいます。今年初めて出演くださった篠山産業高等学校吹奏楽部は、「多くの方々に元氣や感動を与えらるる演奏」を目指されており、パフォーマンスを交えた圧巻の演奏に会場の皆さん釘付けでした。



吹奏楽部の躍動感あふれる演奏

個々に、篠山内外で活躍されておられる皆さんですが、今回は出演された方々に次の出演者を紹介していただく「一体感」を創り出させていただきました。

カーパレードは八名のインストラクターによる、一糸乱れぬ運転に会場の皆さんは、身を乗り出すようにご覧になり、歓声の中イベントの最後をしめくくりました。

フェスタ事務局  
イベント担当 近藤 正幸

ようこそMランドへ！

十一月九日から十三日までの五日間、篠山産業高等学校二年生の四名が、インターンシップ(就業体験)にお越しになりました。

十六・七歳である学生にとって自動車教習所は、一見ご縁が無さそうな職場ですが、そこは宝の山Mランド。体験していただくことは盛り沢山で、初日は教習所であるMランドの「掃除」・「あいさつ」・「はがき」の取り組みからおはなしました。ゲストをお迎えするための掃除は、館内、ホーム(宿泊施設)、教習車や教習コース、もちろんトイレと多岐にわたり、また、毎週水曜日の「三宝庵」でのお茶席も、「思いやる」心を学ぶよい経験となったことでしょう。



満仲先生からお茶のご指導

そして、コミュニケーションはスマホでという若い皆さんに、最終日はご両親と先生に思いを伝える、はがきを書いていただきました。初日の朝礼の自己紹介にくらべ、最終日のあいさつの違いは歴然で、その成長は嬉しさのほかにありません。皆さんのこれからの人生で、お役に立てることがあったなら幸いです。ありがとうございます。

研修チーム 岸恒三郎

小野南中学校  
トイレ掃除に学ぶ会

先月号ではお伝えできなかったことを、今月号にて掲載させていただきます。

十月二十三日、第七回目となる小野市立小野南中学校、三年生百十七名によるトイレ掃除に学ぶ会に、今年もリーダーの一人として参加させていただきました。今年には人数が多く十二の班編成になり、私が担当した十七名には道具が足りず、また、便器の数より人の数のほうが多くなってしまいました。掃除をする前に、今ある道具を工夫して最大限き

いにすること、手が空いたときはどうすればいいかを、考えていただいていたから掃除を開始しました。伝統的にトイレ掃除をされているので、抵抗なく素手で便器をしかりつかんで黙々と磨いている姿は、学校生活を彷彿させるようです。

また、困ったときに少しのヒントをおはなしすれば、ひらめいたようにどんどん掃除が広がるのも、中学生の頭の柔軟さかもしれません。

終わりの会では、

- ・見方を変えようと、しんどいことでも、楽しみに変わる事が分かった。
- ・少ない道具でも掃除が出来る。
- ・一つのことみんな協力できて嬉しかった。
- ・トイレをきれいにしたら、裸足でも平気で歩けた。
- ・両手を使うことの大切さが分かった
- ・集中することの大切さが分かった。
- ・汚れが落ちるのが楽しい。
- ・これから家のトイレも掃除したい。
- ・などの感想発表があり、どの生徒さんも達成感にあふれた顔をされていました。



終わりの会のようす

最後に、この会を準備してくださった播磨掃除に学ぶ会 木南一志様から、「掃除はこの国の文化であり、日本の美的感覚はすごいものがある。これを大切にしてもらいたい」と生徒さんにお話しされました。 井本 徹

城東ライオンズクラブ  
トイレ掃除に学ぶ会

十一月十九日(木)、城東ライオンズクラブ様と共に、七回目となるトイレ掃除に学ぶ会を、篠山市城東支所のトイレをお借りして開催させていただきました。少し早くお越しになられた一人の会員様が「最近、近くの公園の古いトイレを素手で掃除しています」とおはなされたこと、この日もうれし

さを感じたのです。

開式後、皆さんは黙々と掃除に取りかかれます。お互いに相談されたり、私たちに聞きになったり、そのお姿は「やらされる掃除」ではなく、「自らする掃除」をされるので楽しさをも感じます。一度きれいになると、よこれも容易に落とせ、予定時間にはすべて終えることができました。閉会での皆さんの顔はおだやかで、次回は春にということでお別れました。 井本 徹



「どうしたら取れるんやろね」

編集後記

今年も残すところあと一か月。「もう一か月しかない」という考え方と、「まだ一か月もある」という考え方。同じ時間を迎えるにしても、どういう生き方をするかが大切ですね。

今年のMランドフェスタ事務局のスタッフは、十月に入ってから「一か月」の準備で、篠山を巻き込んだ歓動的なフェスタを創りあげてくれたと、身内ながら頭の下がる思いです。

「こと」をする場合、やらされてするのか楽しんでやるのかの違いは、やり方も結果も変わってきます。あと一か月、楽しんでいきましょう！ (徹)



タイからお越しになったトム君と一緒に